



双塔

カトリック新潟教会

2018年12月
No. 367

アヴェ・マリア

協力司祭 鎌田耕一郎

教会暦をみると、12月2日に待降節が始まります。クリスマスに向かってマリア様を仰ぎ見つめたいと思います。

(うるわしきみ母) 直接に聖母を見たひとびとは、聖書に僅かの記録しか残さなかったし、そこから聖母の面影をしろくしよもない。通常、私たちの見る御絵の聖母は輝くばかりに美しく、清らかで、神々しい女性として世俗的な粉飾を避け、質素な姿に描かれている。しかし、「聖母を美女に表わすということは、キリスト教はじまって以来、千余年の間は誰も考えなかった」(柳宗玄) という事実がある。

聖母を他の女性から区別するために種々の象徴が用いられ、最も多くみられたものは頭の周囲に光輪をつけることであった。それは聖性の象徴であり、聖母の美しさの秘密はそこにある。超自然的聖性の美が輝くために、所謂美人である必要はない。聖母のご出現にあった聖ベルナデッタは、画家達の描く聖母像を見て失望し、「マリア様はもっとその千倍も美しい」と叫んだという。

カルジナル・ニューマンは、「いま仮に聖母にお見えする^{まみ}としたら、おそらく最初に“なんと美しく方だ”と思うだろう。そしてその次には、自分たちの醜さと厭わしさを痛感するに違いない」と述べている。

聖母の美しさは、いかなる表現方法によっても表わすことが極めて困難であり、「キリストを描こうとするものは、キリストと共に生きるを要す」(フラ・アンジェリコ)といわれるように、聖母を心から愛する者だけが接近できるものであろう。

聖母マリアは、限りなく美しいお方だったと思う。

(神のみ母) マリアは大天使ガブリエルから「恩寵に満ちた方」(ルカ1・29)と挨拶を受けた方であり、その恩寵の充満によってすべての被造物に優れ、エリザベトから「主の母」(ルカ1・43)といわれたように、真の神の母であり、十字架のもとでは贖い主の母として立ち尽くしたのである。

それゆえに、地上の生活を終えて天の栄光に引き上げられ(被昇天)、恩寵の世界において私たちの母となり、すべての徳の鑑として輝きながら、旅する教会の悩める子らのために取り次をなさるのである。

神はマリアを通じて、御子キリストを救い主としてこの世に与え、マリアを救いの御業の協力者とするのを望まれたのである。神が選び定められた以上、私たちの側からなすべきことは、マリアを選ぶことではなく、私たちの母として迎えることだけである。それ故に聖母マリアに対する崇敬は、私たちの感情や趣味の問題ではないのである。

幼きイエスの聖テレジアが死の床にあったとき、聖母について述べた言葉を聞いてみよう。それはいかにもテレジアらしく「私どもはマリア様より、もっと幸福なのです。なぜかと申しますと、マリア様にはお慕いすべき聖母がおりになりますでしたから・・・」。

あの数々のアヴェ・マリア(聖歌)も、壮大な連祷も神のみ母にふさわしい。



そよかせ便り



■ 信仰養成講座「聖体の秘跡と聖体授与の奉仕について」 ---- 10月27日(土) ----

あいにくの雨模様の中、「信仰養成講座」、「女性の会」、「聖体授与の臨時の奉仕者養成講座」が合同開催された。ご自身を雨男と紹介された白浜司教様は、マタイ 28 章 20 節「わたしは世の終わりまで、あなたとともにいるのである」について、慰めに満ちた言葉であると優しい語り口で話始められ、

- ・典礼の行為は、イエス様の力が働いている。
- ・人は食べて飲まなければいのちを維持できないので、イエス様は聖体の秘跡を残された。
- ・聖体授与は、皆が一つにまとまるためにイエス様が与える行為であり、司祭が大きなホスチアを割るのは、分かち合い、皆がひとつになることを意味している。

とご説明され、聖体授与の臨時の奉仕者の心構えとして、自ら愛の掟に生きるものでなければならぬと諭された。時折ユーモアを交えた白浜司教様のお話は信徒の笑いを誘い、会場内は終始和やかで明るい雰囲気であった。

■ 新潟教区合同堅信式&茶話会 ---- 11月11日(日)9:30 ---

好天に恵まれたこの日、9 時半のミサは菊地大司教様をお迎えして堅信式のミサとして捧げられ、14 名の方々が堅信の秘跡を受けられた。このミサでは堅信式のために選ばれた箇所が朗読され、菊地大司教様は説教の中で、第一朗読に基づいて「聖霊の 7 つの賜物」について指摘。その中でも「主を知り、畏れ敬う霊」の賜物に触れ、生涯、これを大切に信仰を生きていってほしいと励まされた。

ミサ後は会場をセンター 2 階に移し、菊地大司教様を囲んで受堅者のお祝い茶話会を開いた。会場いっぱいの信徒の前で緊張しながら挨拶をする受堅者と共に、皆で喜びを分かち合う会となった。最初に、11 月 1 日に還暦を迎えられた菊地大司教様のささやかなお誕生会を行った。小さなケーキと祈りのカードと♪ハッピーバースデーを受け取っていただいた。次に、大司教様の近況をお聞きする「Q & A」のコーナーでは、子ども達からの「どうして神父様になられたんですか?」「どうしてピンクの帽子を被っているんですか?」などの質問に一つひとつ丁寧に答えて下さり、独特の語り口に、信徒からは笑い感嘆の声も。最後に皆で「花は咲く」「主と共に」を合唱した。大司教様との貴重な時間はあっという間に過ぎて閉会を迎えたが、いつまでも名残りを惜しむ信徒が大司教様を囲んで、語らいの輪ができていた。

また同日は、茶話会後に「東日本大震災復興支援バザー」が行われた。物品寄付・販売手伝い・お買い物協力と、信徒皆の協力の元、盛会に終わった。収益は昨年同様「真こころ(福島)」「八木山オリーブの会(宮城)」に送られる。

*聖霊の 7 つの賜物…上知、聡明、勇気(剛毅)、賢慮、知識、孝愛、主への畏敬。

あゆみ

ナンバー93 小教区評議会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

12月の講座はお休みです。

待降節黙想会のお知らせ

12月の講座はお休みです。

《指導》フック神父様（吉祥寺教会）

《テーマ》救いの歴史に生きる

《日時》12/8(土) 15:00～16:00 日本語による講話

16:00～16:30 ゆるしの秘跡

16:30～17:30 ベトナム語による講話

12/9(日) 9:00～9:30 講話、ミサ後ゆるしの秘跡

カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑町通一番町656 TEL:025-222-5024 FAX:025-222-5054